

基本政策

具体的イメージを公表せよ

平成27年度に行う



なっているのか。そして、最終的な事業効果の検証はきちんとなされているか。

答 大西町長

住民福祉の向上が図られているのかを住民が認識できるかが最重要と考えている。そのためにも、全課を対象にサマーレビュー（夏時期の聞き取り及び提案）を行い各課の全体業務の確認を行っている。その中でも特に財源確保と人員の配置を含む推進体制の確認が重要と考えている。

問 各課において、町が取り組まねばならない重点課題について、出来るだけ優先順位をつけ、数字で示せるものは明確な数値を含んだ努力目標を町民に公表し、その努力した結果を判断材料に使いながら、次の事業に生かせる仕組みを作る気はないか。また、事業目的の本質的な内容を、全職員にまで認識させた上で取り組める仕組みは出来ているのか。更に、町長が年度当初に発表する施政方針と、具体的実施事業との関連はどう

また、業務効率の改善とプライオリティー（※）の選択について意識して取り組んでいる。更に事業実施の内容は施政方針とリンクされていることは間違いない。事業結果の検証については、数字ではつきりつかめないもの以外はある程度、全体での検証は

出来ていると考えている。

※：優先事項、優先権

問 上記で個別に考えられた事柄と町長が独自に考えている事柄を総合的に判断し、これからの4年間で、大西町長が具体的に何を、いつまでに、どういった計画で進めたいのかがわかるような、町長の思いをまとめた、黒潮町のグラウンドデザイン（基本政策）的な資料を作成し公表する考えはないか。

答 大西町長

グラウンドデザインは、平成27年の施政方針と合わせて別添で町民に示す考えである。また、総合振興計画が上位の計画なのでそれに基づいた、ある程度の目標を示すことは可能であると考えている。

また、課内の問題を把握するためのサマーレビューは、基本的に5つの過程を経てい

る。1つ目は課題事業の洗い出し。2つ目は課題目標の設定。3つ目は説得資料の作成。4つ目は課内でのプレゼン練習を行い、問題共有を図ることである。そして、最後の5つ目は課員が直接、町長に訴えるようにし、問題意識を持つ努力をしている。更に、縮小する地域を維持するため、あったかふれあいセンターの活用が今後は重要と考えている。

6月議会で配布された町長施政方針は、あまりにも総花的で具体的根拠が見えず、折角の町長の熱い思いが伝わってこない。若い町長に期待する住民も多いと思う。何度も提案し、もう十分と思われているかもしれないがこの提案を受け入れ、そういったものを町民に示す考えはないか。

また、職員が減少していく中でそれをカバーするために住民と協働しながら、様々な課題解決に向けて努力すべきと思うがどうか。



現在、取り組んでいる「第1次黒潮町総合振興計画」